

読むこと 指導のポイント

(その9)

～ 音読活動の充実 ③ ～



- 1 英語の綴りを見て正しく発音できるようにすること
- 2 英文を正しく理解し、
内容にふさわしく音声化できるようにすること

(その7)(その8)音読活動の充実①②で触れたとおり、このことが音読活動の本来の目的です。しかし、音読活動は、「読む」活動に終わらずに、「話す」「書く」のアウトプット活動に有効につながる活動であるとも言えます。

つまり、音読活動に次のような意義もあります。

- 表現や語彙等の習得
- アウトプット力の育成

今回は、**アウトプット活動へのつながりを意識した音読活動**を紹介します。これらの活動では、文字を読むことよりも、暗唱して発話することに意識が向きがちになります。そのため、下記のように、音声化する練習後に、**各自音読できる状態にしてから行ったほうがよい**と考えられます。

【音読活動の基本的な流れ】

1	モデル提示 (全文)	本文の英文全体を聞かせる。(教師またはCDによる)
2	Listen & Repeat	教師またはCDの後に繰り返し音読させる。
3	バズリーディング	生徒個人で音読させる。(会話文であればペアで)
4	ペアで確認	会話文の時は省略させる。
5	数名発表	代表生徒数名に発表させる。

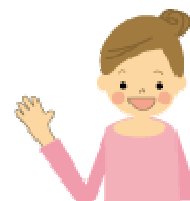
これ以降に行うとよいでしょう。

Read & Look up には、昔から取り組んでいます。



Read & Look up とは？

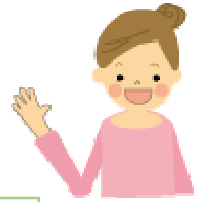
英文を目で追いながら教師やCDの英語を聞き、その後、顔を上げ、文字を見ないでその英語を発する活動です。



この活動を取り入れている先生も多いと思います。

この活動では、一度（文字を見ながら）聞いたものを、文字を見ずに発話することになります。文字を見ないで発話するためには、集中して音を聞くことになり、また、文の構造や意味を考えなければならないので、表現や語彙等の習得や、話す力の基盤を育成するための効果が期待できる活動です。

音読筆写を実践している先生もいるようです。



音読筆写とは？

様々な方法があるようですが、基本的には Read & Look up に書く活動を加えた方法です。

音読筆写は、Read & Look up と同じような流れで行いますが、生徒が英文を言うときに、同時にその英文をノートに書いたり、指を使い空で書いたりする点が特徴です。そのため、英文を書く力の育成につながると言われています。本文全てで行うには時間がかかりかかってしまうので、重要文などにしぼって行うことも考えられます。

シャドーイングは難しくて…。



シャドーイングとは？

生徒が文字を見ずに、教師やCDの英語を聞き、その英語とほぼ同時（やや遅れて）に発話する活動です。

もともとは同時通訳の訓練法で、その効果に注目が集まり、一時はブームになりました。（その2）で紹介したオーバーラッピングと似ていますが、シャドーイングは聞こえた英文を話すという文字を介さない活動なので、音読ではないという解釈が多くを占めています。確かに、リスニング活動として、高いレベルのリスニング力を身に付け、発音とイントネーションを矯正するためのたいへん優れた方法ではあります。また、難易度の高い活動なので、英語の得意な生徒に家庭学習時の方法の一つとして伝えてもよいと考えます。

最近、今回紹介したようなアウトプット活動につながる音読活動が注目されすぎて、本来の音読活動の目的があいまいになっている状況が窺えましたので、音読について（その7）～（その9）で再考してみました。

音読についてまとめます。各校の音読指導を見直す機会にしてください。

- 英文の内容を理解させた後に音読活動を行う。
- 次の音読の目的を再確認し、「文字を音声化する」指導をする。

- 1 英語の綴りを見て正しく発音できるようにすること
- 2 英文を正しく理解し、内容にふさわしく音声化できるようにすること

- 上記目的を踏まえた上で、アウトプット力の育成にもつながることを意識した音読活動も工夫して取り入れる。